

## J-PARC 事故に関する原子核物理学実験系研究者コミュニティの声明

われわれ日本の原子核物理学実験系研究者は、われわれが運営に関与し基幹施設の一つと位置づける J-PARC ハドロン施設において放射性物質漏洩事故が起こったことを痛恨の思いで受け止めております。

今回の事故の原因として、J-PARC の施設や組織の安全体制に大きな問題があったことが事故報告や有識者会議において明らかとなっています。われわれとしても、J-PARC の安全体制確立のために、J-PARC/KEK/JAEA に対し責任体制の強化などを要望するとともに協力の申し出を行ってきています。J-PARC の示した安全対策の方針は、有識者会議とそれに続く県の第三者委員会で検討され、おおむね妥当との評価を受けており、われわれもこの方針は十分に合理的なものと考えます。しかしながら、地域住民の方々や社会に真に安心感をもっていただけるようにするためには、今回示された J-PARC センターの安全優先の運営指針がどう実行されていくのかをわれわれユーザーがつねに確認し、またこれを支援していく必要があると考えます。われわれは、自らの安全意識をさらに高めると共に、J-PARC センターおよび KEK/JAEA 両機構と協力して、J-PARC が地域、社会に開かれた安心な施設となるよう、その運営に貢献していく所存です。

J-PARC は、世界に類を見ない画期的な加速器施設であり、国内外から非常に大きな期待を集めています。J-PARC ハドロン施設には、現在ここでしか行うことのできない多くの重要な研究課題が存在し、一刻も早くその運転を再開し学術的成果を創出することが世界的に求められています。当施設から大きな成果を上げ、日本を学術的貢献力の極めて高い国として世界に誇れるようにすることが、ユーザーであるわれわれ研究者に課せられた最大の使命です。そのためには、地域住民の方を始め社会からの安心と信頼を回復することが大前提です。その実現に原子核物理学実験系研究者コミュニティは最大限の努力をもって取り組みます。

2013 年 10 月 21 日

核物理委員会 委員

大阪大学・核物理研究センター	青井 考
理化学研究所・仁科加速器研究センター	岩崎 雅彦
理化学研究所・仁科加速器研究センター	上坂 友洋
理化学研究所・仁科加速器研究センター	延与 秀人

東京大学・理学系研究科／理化学研究所	櫻井 博儀
東北大学・サイクロトロン RI センター	酒見 泰寛
東北大学・電子光理学研究センター	清水 肇
東京大学・原子核科学研究センター	下浦 享
東北大学・理学研究科 (委員長)	田村 裕和
京都大学・理学研究科	永江 知文
東京工業大学・理工学研究科	中村 隆司
九州大学・理学研究院	野呂 哲夫

核物理委員会は、日本の原子核物理学実験系研究者コミュニティ「原子核談話会」(会員 655 名) を代表する組織。